

【ねがいましては】

第63号

平成6年3月23日
共和珠算学習塾

「理想と現実」

この言葉の例は、私たちの生活の中にあまりにも多く見られます。

最近のお母さんたちに対するアンケート調査から「おやつ」と思われる結果が見られたことです。その調査によると、お母さんが一番自分の子どもに望むことは?という質問に「元気な子」「優しい子」「健康な子」「思いやりのある子」etc というように、上位は人間性に対しての要求がとても多かったことです。それに対して私が不思議に思ったのは「勉強ができる子」がなかったことです。何か理想と現実がはっきりと出ているように感じました。確かに「やさしさ」とか「思いやり」は、人が人として生きる基本です。基本はわかっちゃいるが、この現実を考えるとどうも勉強が優先でして・・・と、多くの方が落ちつくようです。

どうしてもこの「やさしさ」と「勉強ができる」というのは現段階では結び付きにくいシステムになっているようです。

中学生になりますと、学年順位で並べられてしましますし、そこからはどうしても他人と戦っているという考えが発生しがちです。大人としての精神的基礎ができあがってからであれば「競う」ということは美しく見えたりもします。オリンピックなどはその良い例だと思います。スキージャンプでの、あの原田選手のジャンプが失敗に終わり、しかし見せたあの笑顔は素晴らしいなと思いました。

まだ心の発達が未成熟の時には、この点、気をつけないといけないと感じます。人を蹴落とすことに喜びを覚えるという考えになってしまいがちで、これは精神の発達上好ましくないことはあたりまえです。よく大相撲の貴乃花がインタビューで言っていることで「自分の相撲をとるだけです」と言ってますが、実はこれ、とても大事なことだなーと感じます。この言葉を「自分の勉強ができるかです」というように置き換えれば、ひょっとしたら「やさしさ」と「勉強ができる」がけっこう接近するのではと考えています。

いずれにしても徐々に足を踏み入れていく現実です。不況だとか、就職難だとか、春闘だとか、貿易黒字だとか、避けられない現実に浸っている大人たちにとって、子どもたちが誰に教わったでもなく自然に表現してくれる「やさしさ」をしっかり受け止めてあげることは、とても大切だと思います。

運動会のかけっこで、ころんだ子のところへ後戻りして助けてあげて一緒に手をつないでゴールなんて光景に拍手!

うっかり割ってしまった学校のガラス、知らず知らずのうちにクラスのみんなが一緒になって後片付け・・・なんていう光景に拍手!

☆お知らせ

この4月より当教室にファクシミリを導入いたします。

これは学習科において日頃から家庭学習の重要性は伝えていますが、家庭学習のやりにくいところは、わからなくなったらそこでストップ、ということです。そこで家庭で出てきた質問を援助しようというものです。学校の宿題、他の学習塾での問題、自分で秘密に進めている勉強の問題などいろいろです。

☆4月の予定

3月30日(水)	春の遠足・別紙にてお知らせ済み
4月 7日(木)	珠算科の新学期 新入生見学会 2:30~ 検定発表
8日(金)	学習科の新学期